

みこし

神輿をかつぐ子どもの元気な声が、
なによりの楽しみだない。



「子どもたちに夢を与えたい」という思いが、大きな原動力を生み、独学で作りはじめた子ども神輿。その評判は村内のみならず、福島市、石川町、会津高田町などにも届き、寄贈した神輿は数多い。岩谷さんは祭りを元気にさせる名脇役だ。

神輿をかつぐ子どもたちの周りに多くの人が集まり、大人も子どもも活気づく。その情景は、岩谷さんにとって一番のげみとなり、責任感も生まれてくる。

岩谷さんの毎日は多忙だ。

「昼は管理人の仕事をして、帰宅すると農作業を手伝う。その合間に神輿を作っているんだよ。知り合いの建具屋さんから材料をもらって骨組みを作り、屋根は園芸用の土、全体に金箔や朱を塗り、装飾金具で飾り付けをして、金色に輝く鳳凰を屋根につけると完成だ。材料費の多くは自費。制作に約3ヶ月位かかるかなあ。」

高さ1メートル、重さ約15キログラムの神輿は、細部までが緻密で美しい。五穀豊穡の神への感謝の気持ちを表わすと同時に自身の存在感を主張しているように思える。

昭和57年から作り始めた神輿は数多く、完全に岩谷さんのライフワークとして定着した。もちろん、いまでも図書館で専門書を手に取り、研究する熱心さには脱帽させられる。

「子どもたちの威勢のいい掛け声を聞くと、大変さよりも楽しみのほうが大きいからない。」



と話す岩谷さんには、孫が10人、ひ孫が3人いる。子どもたちに囲まれているからこそ、子どもたちの気持ちを理解し、喜ばせたいという気持ちが一歩強いのだと思う。この他にも手先の器用さを生かして、地元老人クラブに芸能用獅子頭を寄贈したり、木彫りの観音像を制作。観賞用菊の栽培や師範の資格をもつ書道など人生を豊かに生きてきたお手本のような人である。

「趣味が人様の役に立てれば、それ以上の幸せはない。」と笑顔で語る。これからも玉川を支える元氣人として、活躍の場を広げていく姿勢だ。

岩谷

Iwaya Shigeru

玉川村就業改善センター
管理人

繁